全国・国際武道空手道交流大会　　2020　ルール概要一覧　　NPO法人世界武道連盟風林火山　　2.1.11改訂

組手	試合時間 本戦	試合時間 延長戦	コンタクト方式	勝ちの基準	プロテクター等	ポイントの基準	主な反則
伝統組手、幼・小・中	1分30秒	1分	寸止め/拳サポ着用/幼・小・中はカデットとする	4ポイント先取り　「先取」採用	全空連検定のメンホー、胴プロテクター、拳サポーター、ファウルカップ。レッグサポータ任意。	突き・打ち1ポイント（有効）、中段蹴り2ポイント（技有）、上段蹴り3ポイント（1本）	当てる攻撃。残心のない技。帯から下への攻撃。場外。逃避等。
伝統組手、高校・社会人	2分	1分		6ポイント先取り　先取採用	高校以上は胴プロテクターはなし。		全空連ルールに準拠して「先手」制度導入、ペナルティーは反則より与える。
フルコン、幼・小・中	1分30秒	1分	顔面なしフルコンタクト／幼・小・中・高・女性・一般初級は拳サポータと足サポータを着用。	１本（２ポイント）勝負。技あり（１ポイント）ふたつで合わせて１本となる。	幼・小・中・高・一般初級・マスターズ・レディーズはヘッドギア、布製の拳サポ・脛サポ、金的ガード着用（女子はチェストガード）	攻撃により相手が３秒以上倒れた、または戦意喪失した時１本	顔面への手・膝による攻撃。金的攻撃。首・喉への攻撃。肘・貫手・頭突による攻撃。つかみ。背後からの攻撃。倒れた相手への攻撃。
フルコン高校・社会人	2分	1分				一瞬動きが止まったら技あり（技あり２つで合わせて１本）	１回目注意／2回目は減点１（相手の技あり）／３回目は失格（相手の勝ち）
					男子一般上級のみ全て無し（金的ガードは必着）	判定は反則や優勢度で旗上げで勝者を決める	
防具組手、幼・小・中	1分30秒	1分	防具をつけた場所への威力のある突き・蹴り、主審の「やめ」の合図の前にかけた有効な技(連続技・相打ち・返し技)は全て加点される。	1本(相手のダウン・3連続技)又は技あり５ポイント差	面は白色のスーパーセーフ面かＫプロタクター面 胴は赤・青リバーシブルのＫプロテクター胴（類するものも認める）。布製の拳サポータを着用。脛・足サポータは任意	突き・中段蹴り1ポイント、上段蹴り2ポイント、転倒した相手への寸止め１～２ポイント	防具以外への攻撃。ローキック、投げ技、バックハンド、肘打ち、頭部への膝蹴り
防具組手、高校、一般	2分	1分30秒					
グローブ、幼・小・中	1分30秒	1分	顔面ありフルコンタクト。片手での首支持から膝蹴りは可能(顔面は禁止)	１本勝負（技あり２つ）	１４オンスグローブ着用（中学以下はジュニア用グローブ）、ヘッドギア、ファウルカツブ着用	１本はダウンもしくは３秒以内にファイティングポーズがとれない場合	金的、肘による顔面攻撃、背後からの攻撃、倒れた相手への攻撃、攻撃を伴わないクリンチ、投げ・関節技、顔面への膝蹴り(中学生以下)、両手の首支持
グローブ高・社会人	2分	1分	顔面ありフルコンタクト。片手での首支持から膝蹴りは可能(顔面も可)			一瞬動きが止まると共に一方的な攻撃を受けた場合は技あり（技あり２つで合わせて１本）	１回目注意／2回目は減点１（相手の技あり）／３回目は失格（相手の勝ち）

形／型	ルール	注意	勝敗
形（型）試合／幼・小	準決勝のひとつ前(ベスト8試合)までは基本形で勝負する。（準決勝、決勝で基本形を用いることを妨げない）基本形とは平安初～五段、ピンアン初～五段、撃砕初～二段、撃砕大・撃砕小。幼～小２の部門は一種の形で決勝まで通すことを妨げない。	例えば平安、ピンアンは松濤館、糸東だけでなく極真のピンアンやゲキサイ、沖縄のピンアンも可。	着眼・集中力。形の理解度。タイミング・リズム・スピード・バランス・極め。呼吸・気合。体軸・腰の安定。適切な運歩・たち方。
形（型）試合／中・高・社会人	自由型。ただし準決勝までに使用した形と決勝は違う形を使用すること	例えば剛柔のセイエンチン、糸東のセーパイやサイファ、松濤館のバッサイ、上地のセーサン、極真のセイエンチンやセーパイ等もよい	主審１名、副審２名のフラッグ方式で、フラッグの多い方の勝ち